

## 令和6年上半期火災・救急概況（速報）

～令和6年1月1日から令和6年6月30日まで～

### ① 火災件数が減少し、過去10年で最少を記録。一方で住宅火災は増加。火災による死者が過去10年で最も多く、全てが住宅火災で発生。

- 全火災件数は330件で、前年同期と比べて49件減少しましたが、建物火災は235件で前年同期と比べて20件増加しました。建物火災のうち住宅火災は158件で、前年同期と比べて15件増加しました。
- 放火自殺を除く火災による死者は16人で、過去10年で最も多くなっています（平成27年と同数）。また、全員が住宅火災でお亡くなりになっています。

### ② 救急出場件数、搬送人員ともに、過去最多を記録した昨年を上回るペースで増加。

- 救急出場件数は123,273件で、前年同期と比べて6,274件（5.4%）増加し、搬送人員も100,206人で、前年同期と比べて5,771人（6.1%）増加しました。救急出場件数、搬送人員ともに過去最多を記録した昨年を上回るペースで増加しました。
- 搬送人員の割合を年代別にみると高齢者が58.3%、傷病程度別にみると軽症が45.6%と最も多くなっています。

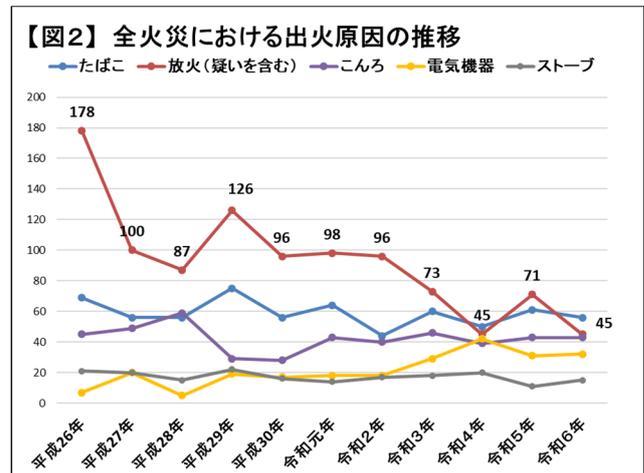
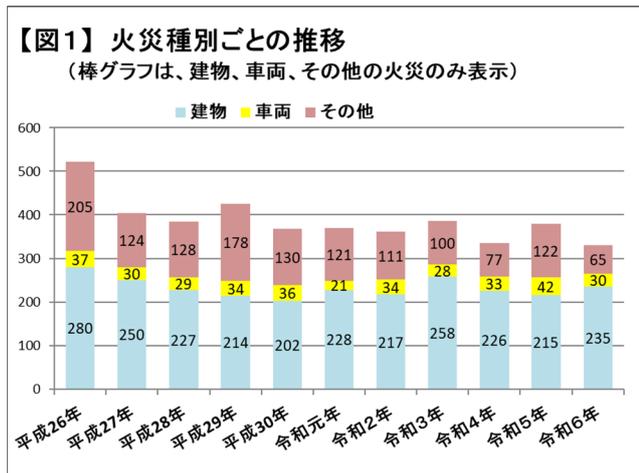
## 1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照） ※過去10年の平均は平成26年から令和5年までとしています。

### (1) 火災件数【図1】

- 全火災件数は330件で、前年同期と比較すると49件減少しており、過去10年で最も少ない件数となりました。全火災のうち住宅火災件数は158件で、前年同期と比較すると15件増加しました。
- 火災種別ごとの内訳は、「建物火災」が235件（前年同期比20件増）、「車両火災」が30件（前年同期比12件減）、「その他の火災」が65件（前年同期比57件減）となりました。

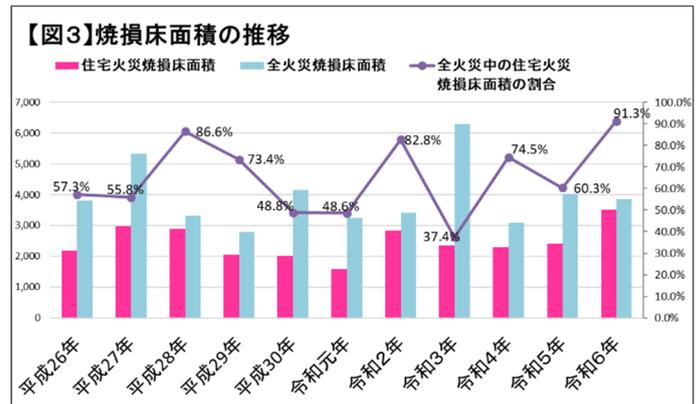
### (2) 主な出火原因【図2】

- 全火災における出火原因の上位は「たばこ」が56件（17%）、「放火（疑いを含む）」が45件（14%）、「こんろ」が43件（13%）、「電気機器」が32件（10%）となり、電気機器のうちリチウム電池が原因となった火災は17件（前年同期比6件増）となっています。昨年出火原因第1位であった放火は、前年同期と比較して26件減少し、過去10年で見ると減少傾向になっています。
- 住宅火災における出火原因の上位は、「こんろ」が35件、「たばこ」が20件、「電気機器」と「ストーブ」がそれぞれ13件となっています。



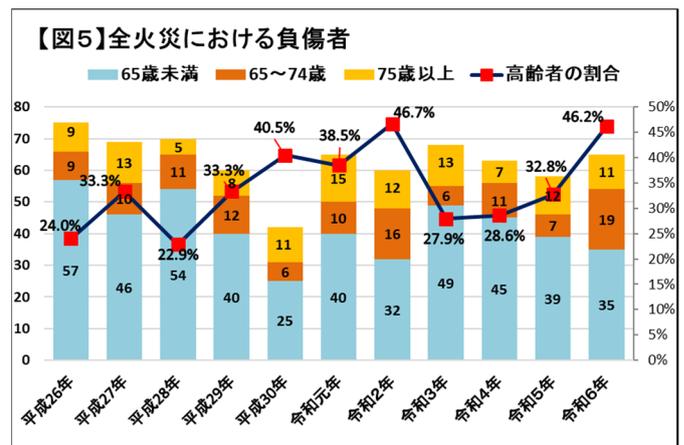
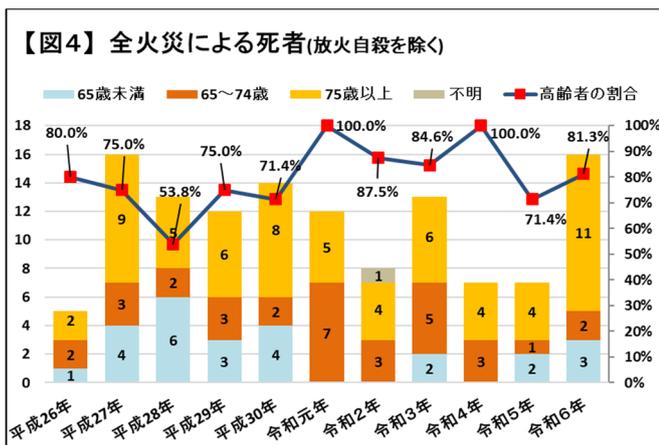
### (3) 焼損床面積【図3】

- 全火災における焼損床面積の合計は3,852㎡で、前年同期と比較して161㎡減少しました。
- 住宅火災における焼損床面積の合計は3,516㎡で、過去10年で最も多く、前年同期と比較して1,097㎡増加しました。
- 全火災の焼損床面積における91.3%を住宅火災が占めており、過去10年で最も高い割合となっています。



### (4) 火災による死者・負傷者【図4】【図5】

- 放火自殺を除く火災による死者は16人で、前年の年間死者数14人を既に超え、過去10年で最も多くなっています（平成27年と同数）。また、そのうち全員が住宅火災でお亡くなりになりました。年齢別では、65歳未満が3人、65歳から74歳が2人、75歳以上が11人となっており、高齢者（65歳以上）の死者は合計13人で、全火災における死者の割合の81.3%を占めています。
- 16人の死者のうち、住宅用火災警報器の設置なし（設置不明含む）の火災で亡くなった方が9人、設置されていたが電池切れのため作動しなかった火災で亡くなった方が1人でした。
- 16人の死者のうち、10人が自宅に1人でいる時に亡くなっています。その内訳としては、「一人暮らし」が8人、「家族留守」が2人となっています。
- 火災による負傷者は65人（前年同期比7人増）で、48人（73.8%）が住宅火災で負傷しました。負傷者のうち30人（46.2%）が65歳以上の高齢者の方でした。



住宅火災から大切な命や財産を守るために、  
次のような対策などを実施しましょう

- こんろ火災対策
  - 火をつけたらその場を離れない、離れるときには火を消す。
  - こんろまわりには燃えやすいものを置かない。
- たばこ火災対策
  - 寝たばこは絶対にしない、させない。
  - 灰皿には水を入れ、火がしっかりと消えていることを確認する。
- 電気火災対策
  - 電源コードを束ねた状態や家具の下敷きになった状態で使用しない。
  - 小型充電式電池(モバイルバッテリー等)に衝撃を加えないよう注意する。
- 住宅用火災警報器
  - 電池切れなどを防ぐために、定期的に点検をする。
  - 10年を目安に本体の交換をする。



身近に防災が学べるウェブサイト  
**よこはま防災e-パーク**では、  
より具体的な住宅防火対策を紹介  
しています！

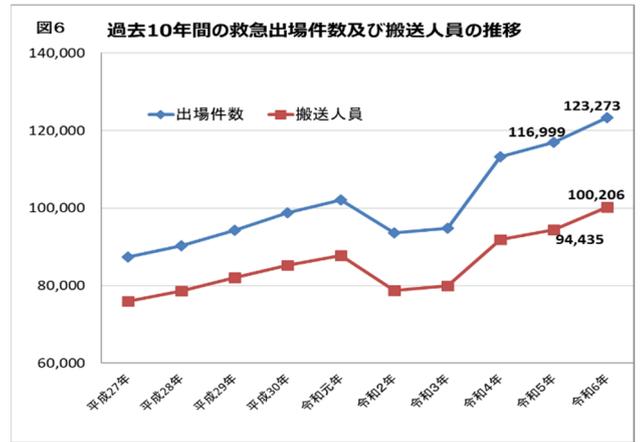
アクセスはこちらから→



## 2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

### (1) 救急出場件数及び搬送人員【図6】

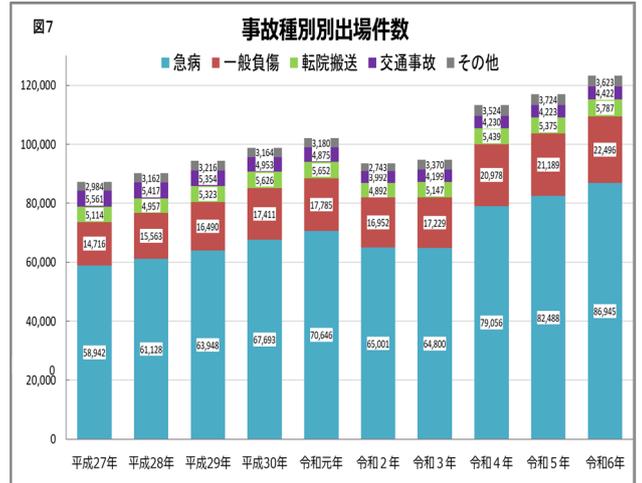
- 救急出場件数は123,273件（前年同期比6,274件増）で、過去最多を記録しました。
- 搬送人員は100,206人（同5,771人増）で、過去最多を記録しました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は677件で、前年同期と比べて31件増加しました。
- 2分8秒に1回救急車が出場していることとなります（前年同期は2分14秒に1回）。



### (2) 事故種別別出場件数【図7】

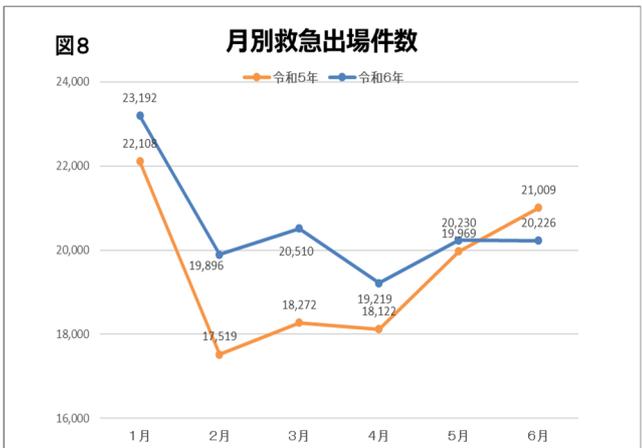
- 事故種別ごとの救急出場件数は、「急病」86,945件（前年同期比4,457件増）、「一般負傷※」22,496件（同1,307件増）、「転院搬送」5,787件（同412件増）、「交通事故」4,422件（同199件増）の順となりました。
- 全救急出場件数のうち、「急病」が70.5%、「一般負傷」が18.2%となりました。

※ 「一般負傷」とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど等が該当します。



### (3) 月別出場件数【図8】

- 1月の救急出場件数は23,192件（前年同月比1,084件増）で、上半期で最多となりました。
- 1月の1日あたりの平均救急出場件数は748件で、前年同月と比べて35件増加しました。

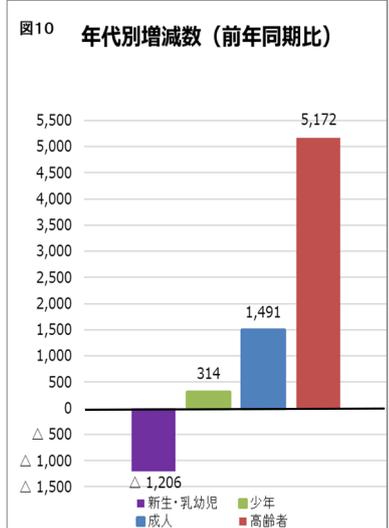


### (4) 行政区別出場件数

- 前年同期と比べて鶴見区以外の全ての行政区で増加しました。
- 行政区別の救急出場件数は港北区（9,798件）、戸塚区（9,072件）、鶴見区（8,958件）の順となりました。

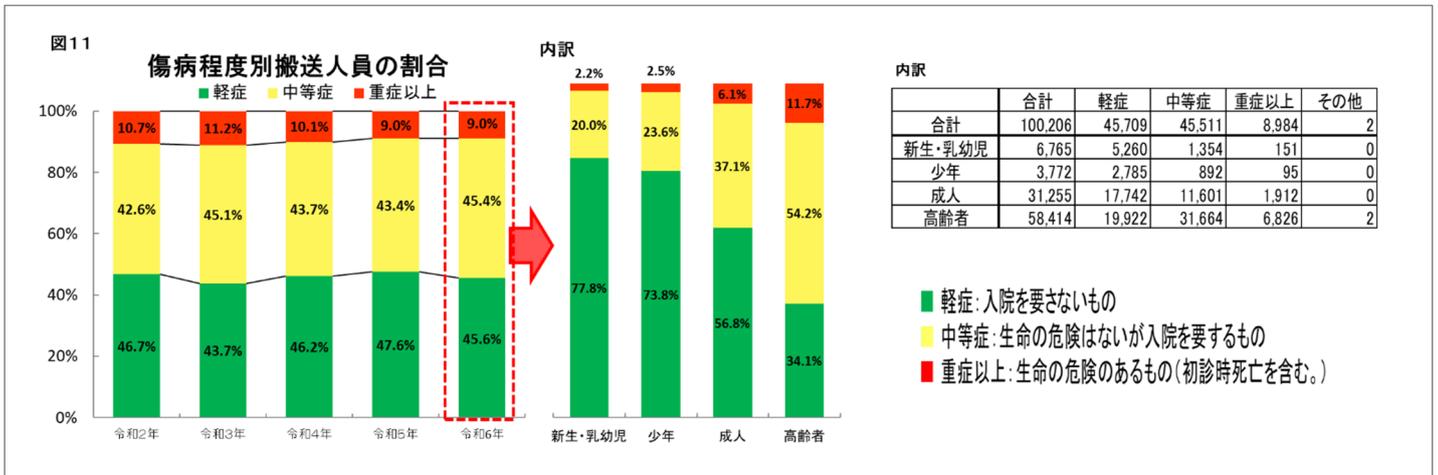
### (5) 年代別搬送人員【図9】【図10】

- 年代別の搬送人員は、65歳以上の「高齢者」58,414人（58.3%）、18歳以上65歳未満の「成人」31,255人（31.2%）、7歳未満の「新生・乳幼児」6,765人（6.8%）、7歳以上18歳未満の「少年」3,772人（3.8%）の順となりました。
- 前年同期と比べて「新生・乳幼児」は1,206人（15.1%）減少しました。



**(6) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図 11】**

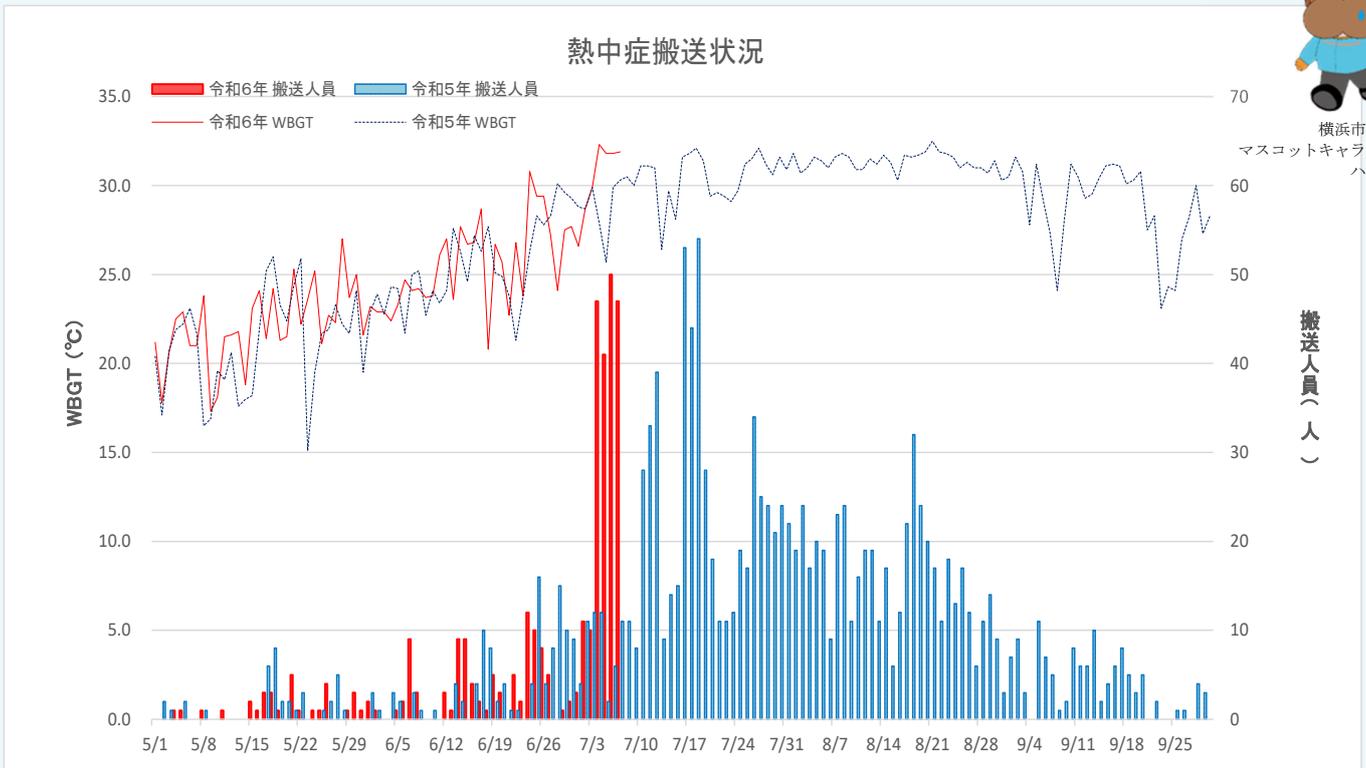
傷病程度別の搬送人員は、「軽症」45,709人（前年同期比744人増）、「中等症」45,511人（同4,497人増）、「重症以上」8,984人（同529人増）の順となり、「新生・乳幼児」及び「少年」では7割以上が軽症であるのに対して、「高齢者」では6割以上が入院を必要とする中等症及び重症以上となりました。



※ グラフ等の割合は小数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100%にならない場合があります。

**熱中症を予防しよう！**

身体が暑さに慣れる前に気温や暑さ指数（WBGT）が上昇すると、熱中症による救急搬送が増加します。今年も、暑さ指数が31℃以上（危険）を記録した7月4日以降、熱中症による救急搬送が急増しています。今年も、暑さの厳しい夏になると予想されていますので、**こまめな水分・塩分補給や適切にエアコンを使用するなど、熱中症にお気をつけください。**



※熱中症搬送状況は、熱中症疑いも含まれます。  
 ※令和6年搬送人員は速報値のため、後日変更する可能性があります。  
 ※暑さ指数（WBGT）は、環境省のデータを使用しています。

お問合せ先			
(火災に関すること)	消防局予防課長	川島 正裕	Tel 045-334-6601
(救急に関すること)	消防局救急企画課長	谷津 直樹	Tel 045-334-6771

# 火災概況〈速報〉

## 1 火災種別・損害状況

単位：件

年別		令和6年	令和5年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成26年～令和5年) (C)	(A) - (C)
火災種別	全火災	330	379	△49	395	△65
	建物火災	235	215	20	232	3
	住宅火災	158	143	15	150	8
	林野火災	-	-	-	-	-
	車両火災	30	42	△12	32	△2
	船舶火災	-	-	-	1	△1
	航空機火災	-	-	-	-	-
	その他の火災	65	122	△57	130	△65
損害状況	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	3,852	4,013	△161	3,945	△93
	死者(人)	17	7	10	12	5
	放火自殺者	1	-	1	2	△1
	負傷者(人)	65	58	7	63	2
	住宅火災	3,516	2,419	1,097	2,358	1,158
	死者(人)	17	7	10	11	6
	放火自殺者	1	-	1	1	-
	負傷者(人)	48	41	7	47	1

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 2 主な出火原因

単位：件

年別		令和6年	令和5年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成26年～令和5年) (C)	(A) - (C)
全火災	たばこ	56	61	△5	59	△3
	放火(疑いを含む)	45	71	△26	97	△52
	こんろ	43 (3)	43 (3)	-	42 (4)	1 (△1)
	電気機器	32 (32)	31 (31)	1 (1)	21 (21)	11 (11)
	ストーブ	15 (8)	11 (6)	4 (2)	17 (12)	△2 (△4)
	上記以外の出火原因	139 (48)	162 (63)	△23 (△15)	152 (52)	△13 (△4)
	計	330 (91)	379 (103)	△49 (△12)	395 (89)	△65 (2)
住宅火災	こんろ	35 (2)	34 (3)	1 (△1)	34 (4)	1 (△2)
	たばこ	20	24	△4	22	△2
	電気機器	13 (13)	12 (12)	1 (1)	8 (8)	5 (5)
	ストーブ	13 (8)	8 (5)	5 (3)	16 (11)	△3 (△3)
	配線器具	11 (11)	14 (14)	△3 (△3)	10 (10)	1 (1)
	上記以外の出火原因	66 (16)	51 (12)	15 (4)	60 (12)	6 (4)
	計	158 (50)	143 (46)	15 (4)	150 (46)	8 (4)

備考 ( )内は電気に起因する火災で各出火原因の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別		令和6年	令和5年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成26年～令和5年) (C)	(A) - (C)
行政区	鶴見区	21	31	△10	36	△15
	神奈川区	23	28	△5	25	△2
	西区	16	19	△3	17	△1
	中区	48	40	8	36	12
	南区	19	25	△6	25	△6
	港南区	12	12	-	22	△10
	保土ヶ谷区	13	14	△1	19	△6
	旭区	15	21	△6	26	△11
	磯子区	9	9	-	13	△4
	金沢区	24	22	2	18	6
	港北区	35	42	△7	35	-
	緑区	9	15	△6	17	△8
	青葉区	15	19	△4	21	△6
	都筑区	8	15	△7	19	△11
	戸塚区	26	28	△2	27	△1
	栄区	12	7	5	9	3
	泉区	17	13	4	15	2
	瀬谷区	8	19	△11	17	△9
	合計	330	379	△49	395	△65

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 令和6年上半期の救急状況〈速報〉

## 1 救急出場件数

区分	令和6年	令和5年	増△減	増減率
救急出場件数	123,273	116,999	6,274	5.4%
1日あたりの件数	677	646	31	
出場率（何分何秒に1回）	2分8秒に1回	2分14秒に1回		

## 2 事故種別別救急出場件数

区分	令和6年		令和5年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	123,273	100.0%	116,999	100.0%	6,274	5.4%	
事故種別	急病	86,945	70.5%	82,488	70.5%	4,457	5.4%
	一般負傷	22,496	18.2%	21,189	18.1%	1,307	6.2%
	転院搬送	5,787	4.7%	5,375	4.6%	412	7.7%
	交通事故	4,422	3.6%	4,223	3.6%	199	4.7%
	その他	3,623	2.9%	3,724	3.2%	△101	△2.7%

## 3 傷病程度別搬送人員

区分	令和6年		令和5年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	100,206	100.0%	94,435	100.0%	5,771	6.1%	
程度	軽症	45,709	45.6%	44,965	47.6%	744	1.7%
	中等症	45,511	45.4%	41,014	43.4%	4,497	11.0%
	重症以上	8,984	9.0%	8,455	9.0%	529	6.3%
	その他	2	0.0%	1	0.0%	1	100.0%

## 4 年代別搬送人員

区分	令和6年		令和5年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	100,206	100.0%	94,435	100.0%	5,771	6.1%	
年代	高齢者	58,414	58.3%	53,242	56.4%	5,172	9.7%
	成人	31,255	31.2%	29,764	31.5%	1,491	5.0%
	少年	3,772	3.8%	3,458	3.7%	314	9.1%
	新生・乳幼児	6,765	6.8%	7,971	8.4%	△1,206	△15.1%

## 5 発生行政区別救急出場件数

区分	令和6年		令和5年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	123,273	100.0%	116,999	100.0%	6,274	5.4%	
行政区	鶴見	8,958	7.3%	8,958	7.7%	0	0.0%
	神奈川	7,678	6.2%	7,296	6.2%	382	5.2%
	西	5,114	4.1%	4,853	4.1%	261	5.4%
	中	8,810	7.1%	8,540	7.3%	270	3.2%
	南	7,381	6.0%	7,236	6.2%	145	2.0%
	港南	7,492	6.1%	7,039	6.0%	453	6.4%
	保土ヶ谷	6,618	5.4%	6,314	5.4%	304	4.8%
	旭	8,278	6.7%	7,655	6.5%	623	8.1%
	磯子	5,648	4.6%	5,327	4.6%	321	6.0%
	金沢	6,572	5.3%	6,252	5.3%	320	5.1%
	港北	9,798	7.9%	9,352	8.0%	446	4.8%
	緑	5,755	4.7%	5,186	4.4%	569	11.0%
	青葉	7,532	6.1%	6,953	5.9%	579	8.3%
	都筑	5,298	4.3%	5,068	4.3%	230	4.5%
	戸塚	9,072	7.4%	8,660	7.4%	412	4.8%
	栄	3,929	3.2%	3,703	3.2%	226	6.1%
	泉	5,044	4.1%	4,563	3.9%	481	10.5%
	瀬谷	4,273	3.5%	4,013	3.4%	260	6.5%
	市外	23	0.0%	31	0.0%	△8	△25.8%

## 6 月別救急出場件数

区分	令和6年		令和5年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	123,273	100.0%	116,999	100.0%	6,274	5.4%
1月	23,192	18.8%	22,108	18.9%	1,084	4.9%
2月	19,896	16.1%	17,519	15.0%	2,377	13.6%
3月	20,510	16.6%	18,272	15.6%	2,238	12.2%
4月	19,219	15.6%	18,122	15.5%	1,097	6.1%
5月	20,230	16.4%	19,969	17.1%	261	1.3%
6月	20,226	16.4%	21,009	18.0%	△783	△3.7%

※全ての表の構成比は少数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。